公益社団法人 静岡県山林協会

森と人

2023年
412
11月15日

森林を守り、育て、活かし、豊かな森を未来に引き継ごう

■表紙写真　題名：「森林シルエット越しの絶景」　撮影地　富士宮市 田貫湖　撮影者　宮崎泰一氏（富士市）

本誌のバックナンバーは、静岡県山林協会ホームページでご覧いただけます。
ホームページには、林業への就業を考えている方の参考になる記事も掲載しています。　URL：https://www.moritohito.jp

INDEX

2 **支部だより①**（函南町 建設経済部 産業振興課）
災害に強い林道整備

3 **支部だより②**（浜松市 産業部 林業振興課）
「商人のまち大阪」での浜松市のチャレンジ

4・5 **事業体等紹介No.19**（株式会社 ふもとっぱら）
林業・山林経営が抱える課題解決への挑戦

6 **県庁だより①**（くらし・環境部 環境局 環境ふれあい課）
森林ＥＳＤ出前授業

7 **本部情報**
県への要請活動について
日本治山治水協会創立85周年記念 治山功労表彰
冊子「森林環境譲与税を活用した取組事例集2023」の発行

8 **本部情報**
林業雇用管理改善セミナーの開催
林業への就業支援について

支部だより①

災害に強い林道整備

函南町 建設経済部 産業振興課

災害に強い林道を整備するために講じている災害未然防止対策事業について紹介いただきました。

函南町の概要

函南町は静岡県の東部、伊豆半島の玄関口に位置し、JR東海道線、丹那トンネルの西口にある函南駅は、東京駅から100キロメートルの距離にあります。東名高速道路「沼津 IC」及び新東名高速道路「長泉沼津 IC」から「伊豆縦貫自動車道」に接続されており交通の便もよく、風光明媚で気温温暖、酪農やスイカ、イチゴ、トマトなどの栽培が盛んです。箱根山脈の分水嶺を境としており、箱根（函嶺）の南に位置するところから「函南」と名付けられました。

また、町の総面積が6,516haに対して、約55パーセントを占める3,570.88haの森林があり、豊かな自然を有しています。そのほか、道の駅「伊豆ゲートウェイ函南」・かんなみ仏の里美術館・酪農王国オラッチェなど大人から子どもまで楽しめる充実した施設があり、他市町・県外からのお客さんも多く見られます。

林道における災害未然防止対策事業

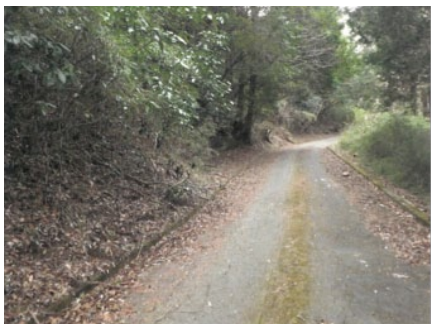
当町は林道沿いに森林経営計画が策定され、森林整備が実施されていることから、林道の安全、交通の確保が森林整備の促進につながると考えています。

しかしながら、昨今のゲリラ豪雨や台風被害によって林道の道路崩落、落石の被害が絶えない現状があり、森林整備の妨げの要因になっていました。

従来の林道における維持管理事業は、道路の破損箇所に対する補修事業や土砂・落石等の支障物撤去など応急措置が主となっていたことから、災害未然防止対策を講じ、災害に強い林道整備が重要であると考えます。

▲道路のり面に点在する転石状況

令和2年度に林道の防災点検を実施し、危険箇所の選出および危険度の判定を行いました。点検の中で道路のり面に転石が浮石化した状態で多く存在する箇所や地盤の沈下が見受けられる箇所等の危険箇所があったことから、災害未然防止措置を実施する優先順位を検討し、防災計画の作成も行いました。翌年度から防災計画を基に落石被害の多かった優先度の高い危険箇所の対策工法選定と測量設計を行い、令和4年度から落石防護柵の設置工事に着手しています。今後も林道の危険箇所に対して、緊急度および経済性を考慮しながら災害に強い林道整備をすすめていく方針です。



▲林道の整備前

▲林道の整備後

おわりに

函南町では、林道整備のほかにも森林環境譲与税を活用し、森林所有者による森林整備の支援を目的とした間伐事業補助金制度の創設、竹破砕機の無償貸出し、森林環境教育を目的とした自然教室を開催するなど、引き続き森林保全に努めていきたいと考えています。

支部だより②

「商人のまち大阪」での浜松市のチャレンジ

浜松市 産業部 林業振興課

天竜材（FSC認証材）の販路拡大に向けたこれまでの取組・成果と新たなセールスの展開について紹介いただきました。

浜松市は天竜材（FSC認証材）の販路拡大に向けた積極的な取組により、持続可能な林業の発展の実現を目指しています。

今回は過去の事例と新たな販路拡大戦略に焦点を当て、その取組の一部をご紹介させていただきます。

これまでのセールスの成果

浜松市は今日まで関東方面を中心にセールスを展開。東京オリンピック・パラリンピックの選手村ビレッジプラザや有明体操競技場への納材を実現するなど多くの実績を重ねてきました。これらの大型建設プロジェクトでは、天竜材（FSC認証材）が積極的に活用され木材納材システムやその質が評価されています。

特に、選手村ビレッジプラザへの納材は注目に値します。選手村ビレッジプラザはメディアを通じて多くの人の目に触れる施設。「浜松市」と刻印された天竜材（FSC認証材）が事務所やメディア諸室となる部分の柱や梁・床等に使用されることにより、国際的なスポットライトを浴びる機会となりました。

また、この選手村ビレッジプラザで使用された天竜材の多くは、2023年1月に開館、現在も多くの来訪客で賑わう「どうする家康 浜松 大河ドラマ館」の通路シェルターの柱やウッドデッキ、メインとサブゲート等にレガシー材として再利用され、持続可能な建築材料としての価値を証明しました。

この成功は、浜松市の林業における新たな販路の開拓と天竜材のPRに、今後も大いに貢献していくことでしょう。

▲選手村ビレッジプラザ

2019年に竣工した有明体操競技場への納材も成功事例の一つです。このプロジェクトでは、必要とされた800㎥の過半数を超える426㎥のFSC認証材を納材し、浜松市が進める持続可能性に配慮した木材調達が高く評価されました。これらの実績は、浜松市の林業が地域外での需要にも応えられる全国トップクラスの供給能力の証として、新たなビジネス機会の創出につながっています。

▲有明体操競技場

新たなセールスの展開

さらに、今年から始まった関西方面への販路拡大計画は、浜松市の林業にとってさらなる大きな一歩です。

浜松市では天竜林材業振興協議会と共催で、令和5年7月1日より大阪市にあるアジア太平洋トレードセンターのショールーム「WOOD MEETS」において『天竜材のPRブース』を開設しました。

アジア太平洋トレードセンターは2025年に開催される関西・大阪万博の会場に隣接していることから、今後このブースを拠点とし万博等の大規模なイベントを控えている関西エリアへのアプローチを強化することで、関西方面に対して天竜材（FSC認証材）の認知度と販路の拡大に繋げたいと考えています。

なお、このブース出展に際しては、ふじのくに領事館（静岡県大阪事務所）とも連携し、本市には情報が乏しい関西方面での情報などを提供いただきました。

▲アジア太平洋トレードセンター（wood meets）

これらの販路拡大の取り組みは、持続可能な森林管理と同時に、地元産業の支援に貢献するものと期待されます。浜松市は、FSC認証材である天竜材の販路拡大を通じて、持続可能な林業の未来を築くためのモデルを確立し、今後も積極的に新たな地域への天竜材の普及を推進していきます。

事業体取材 No.19

林業・山林経営が抱える課題解決への挑戦

株式会社 ふもとっぱら

林業の課題解決のため様々な取組を先駆的に進める㈱ふもとっぱらを取材しました。

近年、大人気のキャンプ。本県のキャンプ場と言えば、目の前に広がる大迫力の富士山がキャンパーたちを虜にする「ふもとっぱら」を思い浮かべる方が多いのではないでしょうか?キャンプ場として有名ですが、会社の主軸は林業だと言います。林業業界では、緑の雇用等の研修会場としても良く知られ、林業や山林経営が抱える課題解決に向けて、挑戦を続ける“株式会社 ふもとっぱら”を、今回は林業の側面から紐解いていきます。

▲株式会社ふもとっぱら 代表取締役社長 竹川将樹氏

ふもとっぱらの誕生

㈱ふもとっぱらの創業は2006年。元々、金山として栄えた山を管理していたのが、現社長の竹川将樹氏の祖先でした。金山は明治以降に造林が行われ、先祖代々竹川家が自伐林家として大切に管理してきました。2005年に東京農業大学の農場だった草原部分が竹川家に返還されたことを機に、その土地をキャンプ場として活用することとし、林業とキャンプ場を併せた経営を行うふもとっぱらが誕生しました。この6次産業化の取組も挑戦の一つで、この複合経営は高く評価され、竹川氏は2011年度の農林水産祭で天皇杯を受賞されました。

▲キャンプ場

主軸の山林経営

現在、管理する森林面積は約770haで、内520haが自社所有林。人工林率は40%で、作業道は概ね作設済みで、10tトラックが通行可能な基幹作業道も整備済みです。林業作業員は現在4名で、基本は1班体制。0.45㎥と0.25㎥のハーベスター、フォワダー、グラップルを所有し、現場条件により選択。作業の安全性確保と生産性向上を図っています。生産量は年間約2,000㎥を超えるほどで、今後も同程度を目指す予定だと言います。

▲林業用トラクター WARIO

「クレジットを想定した場合、生産量を増やし森林を小さくしておくべきだけど…」と竹川氏。しかし、原木価格や、キャンプ場の繁忙期と重なる下刈りの労力などを考えると、慎重に検討せざる得ないと言います。しかし、一昨年から年2haほど皆伐を行っています。今後は山の上部の手入れが必要になって来るため、タワーヤーダの導入等による架線集材も視野に入れています。

▲基幹作業道による搬出

広葉樹の管理・活用を考える

管理森林の60%は広葉樹林が占めている。“広葉樹林の管理が今後の鍵”と竹川氏は言います。「35年から50年での伐採が、萌芽更新に良いと言われているが、もう70年以上経ってしまった。萌芽更新もしづらくなり、川沿いの木が川を塞いでしまうなどの状況になってしまっている。」広葉樹林の管理は、日本全体としても今後の課題になるだろうとのお考えでした。

そこで、ふもとっぱらでは炭焼き窯を作り、キャンプ場での炭の販売を行っています。もちろん、薪の販売も行っており、針葉樹も含めて薪の売上は森林管理の費用へと使われます。自社で生産し、自社で最終消費者にまで販売できるのは、他の林業会社では真似できないことです。また、薪生産は荒天時の仕事の確保にもなります。こうした点は、最大の強みです。また、薪は熱源としての利用もしています。場内にあるお風呂はほぼ化石燃料を使わずに薪ボイラーでまかなえているそう。今後は

チップボイラーを導入する計画が。チップであれば細い枝などさらに使える部分が増え、木材の活用がさらに進みます。

▲所有森林の状況（上部は広葉樹が占める）

駆除だけでは終わらせない鹿対策

シカによる樹皮剥ぎや苗木への被害が悩みの種でした。この対策として、単に鹿の駆除だけで終わるのでなく、2019年にシカ食肉処理施設を建設し、シカの利活用を行っています。地元猟友会と連携し、猟師から捕獲したシカを買い取って加工。場内の食堂でシカ肉を使ったメニューの提供や、ソーセージ等へ加工して場内の売店で販売しています。しかし、人が食べられる部分は全体の2割程度だと言います。そこで、ドックフードも作り始め、すでに行っている皮の活用も合わせ、シカの9割を消費できるとのこと。ペット関連のイベントに出店し、販売・PRも始めています。

▲食堂メニュー 豚鹿豚鹿（ぶかぶか）バーガー

業界としての雇用確保に向けて

日本全体で労働力不足の問題が取り立たされている中、「労働力確保の問題は林業にとって後回しできない問題。あっという間にやってくると思うよ」と危機感を持つ竹川氏。業界としては機械化を進め、賃金を上げ、そして海外の人材も活用することではないかとの考えをお持ちです。ふもとっぱらではキャンプ場の雇用（宿泊業）で外国人技能実習制度を取り入れています。実際に海外から来た実習生は非常に優秀だと言います。フィリピンをはじめとした東南アジアの国々は若年層の人口が非常に多いので、まさに若年層を求める林業業界において助かる存在になるのではないかと。竹川氏の話を聞いて、課題もありつつ、業界の今後の選択肢として有力だと感じました。

日本の若年層の雇用については、「今後は“自然の中で働きたい”と言う人ではなく、“林業をやりたい”と言う人を採用していきたい。」と言います。ここ1年は、キャンプ場含めて辞める人が多かったそうです。それもあり、今後はなぜこの仕事を選ぶのか?を重視し、こだわりのある人を雇っていきたいとのこと。しかし、若い人は給料や休暇といった就業条件や働き方も重視するため、こうした点の改革等も目指さなければなりません。業界全体で取り組む必要があります。

▲緑雇用の研修会（講師は森林事業部長 松崎誠司氏）

自社森林認証材の活用

森林認証はSGECを2010年3月に取得しました。自社で生産した認証材を使用し、3年間かけてキャンプ場にトイレを建設。キャンプ場の中央に位置し、訪れた誰もが目にする建築物です。しかも、中央部分は在来工法で、社員の手刻みによる立派な梁等を見ることができます。また、自社ブランドの家具「FUMOTO　TREE'S」を立上げ生産・販売も始めました。

▲自社材を使用したトイレ（手刻みの梁等）

林業にはチャンスがある

今年5月“には企業と連携したデジタル林業事業実証の開始”がニュースリリースされました。こちらが驚くほど、先駆的に様々な分野の事業を行うふもとっぱら。しかし、それらの元を辿れば「林業が抱える課題の解決」に繋がります。「キャンプ場は森の中に来てもらう手段であって、会社の軸は林業。」と竹川氏。ふもとっぱらの軸はキャンプ場ではなく、林業なのです。そして、林業にはチャンスがあるのだと言います。「人が恐竜に追われた時には森へ逃げた。人は遺伝子レベルで森や自然が好きなんだ。都会に居るとストレスを感じ、森の中へ自然の中へ行きたくなるのは人間の宿命。それをどう使うか。そこに大きな未来のチャンスがあると思う。」と竹川氏。しかし、都会の人は「森＝木材」に直結しないのが現状だとも言います。そこを結びつけることこそが、これからの林業業界のテーマになるだろうと話してくださいました。果たして、林業は次のステージに進めるのか。ふもとっぱらがパイオニアの会社として、また様々な人が集うプラットフォームの場として、今後も新たな扉を開いていってくれるのではないでしょうか。

県庁だより

森林ESD出前授業

くらし・環境部　環境局　環境ふれあい課

森林を守り育てることの大切さを学び、持続可能な社会の実現のために何ができるのかを考える森林ESDについて紹介いただきました。

はじめに

皆さんは、小学校5年生の社会科の授業に、森林について学ぶ単元があることを御存じでしょうか。この授業の中で、子ども達は森林の機能や森林で働く人々の役割等を理解するとともに、私たちのくらしと森林との関わりについて学びます。

県では、公益財団法人静岡県グリーンバンクと連携して、林業で働くプロが小学校を訪問して授業を行う森林ESD出前授業の取組を進めています。

森林ESDプログラム開発チーム発足

「森林ESD（Education for Sustainable Development）」とは、森林や林業への理解を深めながら、持続可能な社会の実現に必要なことについて、自ら考え、行動する力を育む教育のことをいいます。

令和2年度に、県、公益財団法人静岡県グリーンバンク、公益社団法人静岡県山林協会、教育者、環境教育の実践者、林業従事者からなる森林ESD開発チームが発足しました。

令和4年度には、この開発チームで、プログラムの目的や、授業の形態、講師の確保等について検討しました。

▲森林ESDプログラム開発チーム

また、プログラムを開発する中で、小学校の先生の意見を反映するため、アンケートとヒアリングを実施しました。そこから、「地域の森林と自分達の暮らしが繋がっていることを子ども達に教えたい」「遠くの森では無く、地元の森やそれに関わる人について取り扱ってほしい」等の学校側のニーズを把握しました。

森林ESDプログラム完成

学校側の意見を踏まえて、令和4年9月に森林ESDプログラムが完成しました。

森林ESDプログラムは小学5年生の教室に林業のプロ（通称:森プロ）とインタープリターをセットで派遣する出前授業形式で行われます。授業の内容は、地域の森林の状況や林業について説明した後、子ども達から森プロへ直接質問する時間を長く設け、より学びを深められる仕組みになっています。その後、授業のふりかえりを行い、森プロから子ども達へメッセージを伝えます。

林業で働くプロが教室に訪ねてくる

森林 ESD「出前授業」の御案内

静岡県と公益財団法人静岡県グリーンバンクは、小学5年生の社会科の授業に、林業で働いているプロ等を派遣する「出前授業」のプログラムと実施体制づくりに取り組んでいます。

令和5年度から、●●等の御協力を得て、●●市内の小学校への派遣を開始しますので、出前授業の実施希望する学校は4ページ目の申込書を●●へ提出してください。

子どもたちは"森林にもちかいる（教育出前）"でわたしたちの生活と森林（東京書籍）」の単元で、森林林業を学んでいますが、林業で働いているプロ等との対話により、自発的な学習ができます。

出前授業は、インタープリターと森プロの2人で実施（長泉町立北小学校）

授業は、子どもたちと林業で働いているプロの対話によって進めます。

【学校にお願いすること】
- 教室で行うため、特別な準備は不要です。
- 実施を望む日の2日ほど前までに、1週間前までにパワーポイントデータをメール送信しますので、当日、映写の準備をお願いします。

【先生方の評価】 プログラム開発協力校（長泉町立北小学校、長泉町立東椎路小学校ほか2校）の先生方からは、次のような評価をいただいております。
- 子どもたちから「つぶやき」が出て、自ら学ぼうとしていた。
- 「人工林・天然林」等、今後の授業に役立つ内容であった。
- 森林や林業は、遠い存在だったが、身近に感じることができた。
- 楽しかった。

緑の募金　御に緑を、森に豊かさを

公益財団法人静岡県グリーンバンク

〒420-0853　静岡市葵区追手町44-1　静岡県産業経済会館7階
電話　054-275-9960　メール　info@greenbank.or.jp
担当　長谷川

▲小学校宛ての案内状

森林ESD出前授業の実施

令和4年度は、長泉町等の計4校で、森林ESD出前授業を実施しました。

出前授業を実施した小学校の先生からは「子ども達が自ら学ぼうとする姿勢がみられた」「林業従事者の生の声を聞く貴重な機会になった」等の評価をいただきました。

子ども達からは、「森林には色々な役割があるとわかった」「自分たちのくらしは、森とつながっているんだと思った」といった感想のほか、「大切な森林を守るために、自分たちができることって何だろう?」等、身の回りの環境や社会をより良くしていくためには何が必要か、どのような工夫ができるかを考える姿が見られました。

授業を行った森プロからは「森林の役割や林業の仕事について話ができて良かった」という声がある一方、「授業の冒頭から子ども達に興味を持ってもらえるように工夫が必要だと思った」という気づきもありました。

今年度は県内4市1町の小学校で開催する予定です。

▲出前授業（長泉町立北小学校）

おわりに

静岡県環境ふれあい課では、今後も森林ESD出前授業を通して、子ども達に森林を守り育てることの大切さを伝えるとともに、持続可能な社会を実現するために何ができるのかを考えてもらう機会を提供してまいります。

本部情報

県への要請活動について

山林協会では、静岡県森林組合連合会、静岡県木材協同組合連合会、静岡県山林種苗協同組合連合会、静岡県椎茸産業振興協議会、公益社団法人静岡県林業会議所と連携して、9月6日に、令和6年度森林・林業施策に係る要請を、川勝知事、森副知事及び関係部長に対して行いました。

当協会からは、「気候変動等に対応した森林整備・治山対策の推進」、「カーボンニュートラル実現等に資する森林・林業施策の推進」、「持続可能な林業のための森林・林業イノベーション等の推進」、「林業を支える人材の確保支援」、「違法盛土に対する森林法に係る対策の強化」の5項目を要請しました。

日本治山治水協会創立85周年記念 治山功労表彰

一般社団法人日本治山治水協会は、創立85周年記念として治山事業の推進に功績のあった方々の表彰を9月13日に東京で行い、本県では榊原康夫氏が日本治山治水協会長賞を受賞されました。

冊子「森林環境譲与税を活用した取組事例集2023」の発行

森林環境譲与税を活用した森林整備の促進に向け、静岡県と共同で「森林環境譲与税を活用した取組事例集2023」を編集・発行しました。令和3年度から令和4年度に実施された取組を紹介しています。県HPからダウンロードできます。

ダウンロードは
こちらから

本部情報

林業雇用管理改善セミナーの開催

林業事業体における雇用管理改善により、従業員の職場定着や新規の就業促進を図るため、「林業雇用管理改善セミナー」を9月7日に静岡市内で開催しました。セミナーの内、“雇用管理改善研修会”では、中小企業福祉労務協会清水事務所の一ノ宮氏から「林業事業体における雇用改善」、静岡県立農林環境専門職大学鵜飼准教授から「静岡県立農林環境専門職大学林業コース生の就業状況」について御講演いただき、また行政機関から雇用情勢等の情報提供をしていただきました。併せて、“雇用管理改善に関する相談会”を開催し、参加者からの質問、相談に対応しました。

▲雇用管理改善研修会

▲雇用管理改善に関する相談会

林業への就業支援について

第1回しずおか森林の仕事見学会を、9月30日に伊豆市内の林業現場や製材工場などで実施し、6名の方が参加されました。

また、第1回林業就業支援研修を、10月18日から31日に県森林・林業研究センター（浜松市浜北区）で実施し、9名の方が修了しました。

▲森林の仕事見学会（伊豆市内）

▲第1回林業就業支援研修

▲第1回林業就業支援研修

11月～2月は、下記のとおり予定しています。

※予定変更する場合がありますので、山林協会HPで御確認ください。

①第２回しずおか森林の仕事ガイダンス
内　　容：新規就業者募集を行う林業経営体との相談会
日　　時：令和5年12月16日（土）10時～16時
場　　所：日本大学三島駅北口校舎（三島市）

②第３回しずおか森林の仕事ガイダンス
内　　容：新規就業者募集を行う林業経営体との相談会
日　　時：令和６年２月４日（日）10時から16時
場　　所：クリエイト浜松（浜松市中区）

③第２回林業就業支援研修
内　　容：チェーンソーの特別教育、刈払機講習、小型建設機械の運転講習等
日　　時：令和６年１月～２月を予定
場　　所：浜松市内ほか（調整中）
募集定員：15名（先着順）

「森と人」　公益社団法人　静岡県山林協会
編集・発行　静岡市葵区追手町９－６　県庁西館9F
TEL:054-255-4488/FAX:054-255-4489

FSC www.fsc.org ミックス 責任ある木質資源を使用した紙 FSC® C009166

第40回
しずおか森林写真コンクール受賞作品

最優秀賞

森林シルエット越しの絶景

宮崎　泰一（富士市）
撮影地：富士宮市田貫湖

審査講評

審査委員長
竹林　喜由

今年度の応募につきましては、新型コロナの減少により、祭りや行事も復活してきて撮影の機会も増えつつあるのですが、酷暑やゲリラ豪雨などの天候不順による災害の増加など安心して趣味の写真などを楽しむ雰囲気になっていないのが影響しているのでしょうか、応募点数272点、応募者数98名(前年度314点、107名)と前年と比べ減少しております。

今回審査会は、去る９月20日に8名の審査員により行われました。応募作品の内容は年々レベルが上がってきたように感じられますが，ただ、昨年も申し上げましたが写真的には良い作品でもコンクールの趣旨にそぐわないものも散見されましたので、応募規定などを熟読の上ご応募くださるようお願いいたします。

最優秀賞（静岡県知事賞）は、**宮崎泰一氏の「森林シルエット越しの絶景」**に決定しました。

富士宮市の田貫湖畔からの撮影です。この場所は富士山撮影の聖地ともいわれる有名な場所で、特にダイヤモンド富士が狙える季節は大変な人で賑わう場所です。良い作品を撮るためには、撮影技術等の力量も大切ですが、撮影場所の確保や気象条件などに恵まれる為には、相当の努力と運の良さも必要となります。この作品の光の扱いや、画面構成など作品の格調の高さは批評の余地のない素晴らしいものです。

特　選（静岡県山林協会長賞）は、**鈴木信子氏の「修復工事」木村圭佑氏の「最後の一本」**、同（静岡県グリーンバンク理事長賞）は、**繁信裕輔氏の「カブトムシ見つけたよ」**に決定しました。

「修復工事」周智郡森町三倉にての撮影です。

ひどい山崩れの場所で、作者は通るたびに恐ろしい思いをしていたと記しています。工事には大変な長時間と労力がかかっているものと想像できます。法面工事後は不思議な模様が出来上がり、色彩的にも美しく見えます。作者は此の斜面を正面から的確にとらえて迫力ある写真にしています。

「最後の一本」島田市大代にての撮影です。

作者の説明によりますと、島田市の大代国有林における皆伐作業の最後の一本の伐採作業で、作者はこの作業に従事したグループの関係者のようです。遠景の森林と伐採後の広い地面を背後に最後の一本をチエンソーで切るシーンはとても写真的で魅力ある被写体です。逆光を上手く捉えた画面構成などドラマチックに仕上げています。欲を言えば、カメラアングルを少し下に向けると木の根元や作業員の足元が入り、飛び散る引き粉も見えて、迫力がある画面構成になったと思われます。

「カブトムシ見つけたよ」浜松市内の県立森林公園にての撮影です。県立森林公園森の家で行われた夜の昆虫観察会に参加しての撮影とのことです。懐中電灯の光をうまく使ってライティングして撮影しています、カブトムシを見つけた子供の真剣な表情と胸の鼓動が聞こえるような素晴らしい作品になっています。

準特選（静岡県山林協会長賞）は、**上野祐司氏「水田を守る森林」、藤井昭浩氏「プロローグ」、吉野昌宏氏「霧中に咲く」、杉本昌弘氏「神の道」**、同（静岡県グリーンバンク理事長賞）は、**吉田峯治氏「ツリークライミング」**に決定しました。

「水田を守る森林」　駿東郡小山町での撮影です。森林の後方に、朝霧に浮かぶ富士山を捉えています、鏡のような水田に映る逆さ富士も見事に描かれています。この作品は画面構成、色彩等技術面も完璧で作者の気迫も感じられます。気象条件や場所の選定など撮影前の準備などの努力があってこそ、素晴らしい作品になつたものと思います。

「プロローグ」賀茂郡松崎町石部での撮影です。４年ぶりに行われた石部の棚田で1000本のろうそくを灯す催しが行われたもので、夕焼け空が棚田にも写りこみ美しい風景となっています。ろうそくも点灯されているようですが、夕焼け空を優先したためろうそくの光は弱く目立たない状況になっています。ろうそくの光を主体とするならば、もう少し暗くなってからの撮影が良かったのではないでしょうか、しかし、夕景の棚田としてのこの写真も素晴らしい作品となっています。

「霧中に咲く」裾野市須山での撮影です。霧の立ち込める、幻想的な杉林に咲くミツマタの花を撮影しています。この花の写真は多くの方が撮られているようでよく見られます、群生している写真もいいのですが、この作品は一本の木を大きく入れていますので、枝ぶりや花の様子がよくわかります、杉の林と共に凛とした佇まいと空気感が良く表現されています。

「神の道」藤枝市の立石神社での撮影です。４年ぶりに行われた祭りで、うっそうとした森の中の階段をお神輿が下りて来る様子を捉えています。人物やお神輿は遠景のため表情などは見えませんが、久しぶりの祭事で氏子の方や地元の方々の喜びの声が聞こえてきそうです。木々の緑を広く入れたことが、新鮮に感じます。

「ツリークライミング」　浜松市内の県立森林公園での撮影です。大木の枝で大勢の子供がツリークライミングを楽しんでいます。作者は子供たちの個性を出せるように横位置で撮ったとの説明があります。確かに９人の子供たちを画面に入れるには横位置が適切だったと思います、一人一人の顔の表情は見えませんが、身体の形で個性を表現したようです。子供たちにとって貴重な体験だと思います。

このほかに入選19点が選ばれましたが、いずれも力作でどれが入賞してもおかしくない作品ばかりでした。次回も多数の力作の応募があることを期待致します。

特 選

修復工事
鈴木　信子(森町)
撮影地：周智郡森町三倉

特 選

最後の一本
木村　圭佑(島田市)
撮影地：島田市大代

特 選 静岡県グリーンバンク

カブトムシ見つけたよ
繁信　裕輔(大阪 狭山市)
撮影地：県立森林公園　森の家

準特選

神の道
杉本　昌弘(藤枝市)
撮影地：藤枝市　立石神社

準特選

水田を守る森林
上野　祐司(箱根町)
撮影地：駿東郡小山町阿多野

準特選

霧中に咲く
吉野　昌宏(裾野市)
撮影地：裾野市須山

準特選

プロローグ
藤井　昭浩(松崎町)
撮影地：賀茂郡松崎町

準特選 静岡県グリーンバンク

ツリークライミング
吉田　峯治(浜松市)
撮影地：浜松市浜北区　県立森林公園

入 選

シイタケ菌の保護作業
黒田　敏夫(静岡市)
撮影地：静岡市清水区袖師町

紅葉
中沢　力男(浜松市)
撮影地：周智郡森町　小國神社

美しき獣害対策
小林　和重(浜松市)
撮影地：浜松市天竜区佐久間町

森林散歩
後藤　正徳(掛川市)
撮影地：掛川市　原泉地区

SDGsな森
門脇　秀一(富士宮市)
撮影地：富士宮市　粟倉

シズガスの森
鈴木なつき(静岡市)
撮影地：富士市桑崎　シズガスの森

林の中の薪の店
平井　省吾(富士市)
撮影地：富士宮市上井出

森とともに
相羽　　強(森町)
撮影地：周智郡森町　小國神社

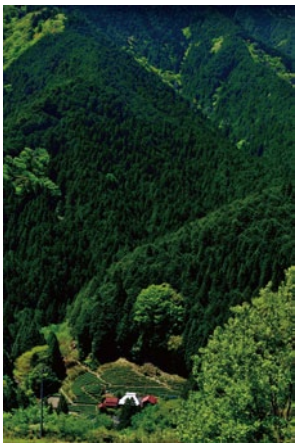
製材所見学
村上　雅已(静岡市)
撮影地：静岡市葵区

彩の森とアプト式列車
塩川　里美(御殿場市)
撮影地：川根本町梅地　市代橋

入 選

新緑
山下多津美(静岡市)
撮影地：裾野市水ケ塚

緑園走行
西澤　優治(横浜市)
撮影地：修善寺　虹の郷



森林に抱かれて
伊賀　　誠(島田市)
撮影地：川根本町小猿郷

木洩れ日に美しく咲く
飯田　政巳(磐田市)
撮影地：浜松市天竜区熊

寸又峡の夏
根本　仁見(茨城町)
撮影地：榛原郡川根本町　寸又峡

緑のなかの滝
遠藤　由信(沼津市)
撮影地：伊豆市　萬城の滝

流
高瀬　理絵(富士宮市)
撮影地：富士宮市半野

大樹の輝き
加藤　次男(浜松市)
撮影地：浜松市天竜区春野町領家　秋葉山

保水の象徴、水玉
吉田　拓矢(小田原市)
撮影地：賀茂郡東伊豆町　天城山

公益社団法人 静岡県山林協会　TEL 054-255-4488　https://www.moritohito.jp

令和５年度
治山・林道等コンクールの優秀工事（13工事）

山林協会では、治山･林道･森林整備等工事の中で、優れた工事を顕彰し、施工技術の向上等を図る「治山･林道等コンクール」を毎年実施しています。

今年度も各県農林事務所から推薦をいただき、審査の結果、治山工事の部10件、林道工事の部3件に対して山林協会長賞を授与することとし、10月25日(水)に静岡市内で表彰式を行いました。

表彰された工事は、急峻な地形や厳しい気象環境など施工条件が厳しい場所で、いずれも作業員の安全確保に十分配慮しながら、高い技術力を発揮された工事であり、工事関係者の皆様の日頃からの御努力の成果が表れていることが高く評価されました。

受賞の皆様

◎治山工事部門

井出運送 有限会社
下田市北湯ヶ野

株式会社 斉藤組
伊東市池

株式会社 アースシフト
静岡市葵区小布杉

徳山建設 株式会社
川根本町徳山

三村建設 株式会社
島田市川根町家山

株式会社 中山建設
藤枝市岡部町桂山

株式会社 榑林組
掛川市沖之須

株式会社 正久工業
浜松市天竜区春野町杉

龍川建設 株式会社
浜松市天竜区小川

株式会社 鳶宗建設
掛川市千浜

公益社団法人 静岡県山林協会　TEL 054-255-4488　https://www.moritohito.jp

◎林道工事部門

眞田建設 株式会社
裾野市下和田

丸大杉山建材 株式会社
静岡市葵区郷島

株式会社 道林建設
浜松市天竜区佐久間町浦川

◎優秀工事一覧

部門	受注者名	施工場所	工事名
治山工事	井出運送 有限会社	下田市北湯ヶ野	令和4年度県土強靭化対策(治山)猪場平工事
	株式会社 斉藤組	伊東市池	令和4年度治山(緊急総合)大矢筈工事
	株式会社 アースシフト	静岡市葵区小布杉	令和4年度治山(復旧)三ツ野工事
	徳山建設 株式会社	川根本町徳山	令和4年度治山(緊急予防)上野山(3繰越)工事
	三村建設 株式会社	島田市川根町家山	令和4年度治山(復旧)清水沢(3繰越)工事
	株式会社 中山建設	藤枝市岡部町桂山	令和3年度県単治山(県営)丹社(平準化)工事
	株式会社 榑林組	掛川市沖之須	令和4年度治山(防災林造成)沖之須1工事
	株式会社 正久工業	浜松市天竜区春野町杉	令和3年度治山(復旧)東山工事
	龍川建設 株式会社	浜松市天竜区小川	令和3年度治山(緊急)長沢松間工事
	株式会社 鳶宗建設	掛川市千浜	令和3年度治山(防災林造成)千浜1工事
林道工事	眞田建設 株式会社	裾野市下和田	令和3年度森林環境保全整備裾野愛鷹線2工区工事
	丸大杉山建材 株式会社	静岡市葵区郷島	令和3年度道整備推進交付金俵峰門谷線2工区工事
	株式会社 道林建設	浜松市天竜区佐久間町浦川	令和3年度道整備推進交付金地八吉沢線2工区工事

表彰式